

日本での生活と原研での仕事

原研リサーチフェロー

ドミトリオス・カルナキス

私は、レーザーを使った材料の研究者で、平成8月、日本原子力研究所の原研リサーチフェローとして日本に来ました。現在、先端基礎研究センター・福村グループのメンバーの一員として、大阪にある関西研究所（寝屋川）で研究を行っています。本グループのテーマは、最近発見された「レーザー駆動分子注入」の研究です。研究内容を一言で述べると、レーザー光を用いて有機分子を固体高分子間で移動させたり、化学反応を制御したりすることです。これらの現象を系統的に調べレーザー光と物質との相互作用をより深く理解していくことを目的としています。ここでは、主に基礎研究を主流としていますが、将来、マイクロ化学やマイクロ材料化学といった分野への応用が期待されています。

私は、以前イギリスの Hull 大学で高分子のレーザーアブレーションの研究を行ってまいりました。私がここへ来て、大学から研究所での研究、さらにヨーロッパからアジアでの生活と生活様式の変化は非常に大きく、順応するのに少々時間がかかりました。日常生活等における簡単なことでさえ、以前とは全く異なっておりましたが、非常に早く日本の様式になじむことができたのには自分自身驚いております。

これまでの1年間で得られた経験、たとえばこの分野で有名な教授やよく知られた研究者との共同研究や議論、非常に優れた最先端の装置を使って研究ができたこと、また日本の様々な場所を訪れたこと、さらに国際会議に出席させていただいて研究交流を行ったことなど今後の自分の人生の糧になることは間違いあり

ません。また、私がこれらの仕事に少しでも貢献できたことをうれしく思っています。

現在、先端基礎研究センターに所属して二年目になります。一年目では、納得できる研究の進展と質の高い結果を残せ、二年目からは多くの仕事を後押しする二人の博士研究員の加入で、より明るい展望を迎えるように思われます。原研は全ての若い研究者の夢がある場所です。すなわち、それらは多様な研究テーマによる刺激、そして質の高い研究へのチャンスの提供、です。よって、現在私は、リサーチフェローという流動的立場にありますが、機会があれば将来原研に戻ってきて研究することをためらわないだろうと思っています。

研究するだけの生活は少し退屈で、私は時間の許す限り関西の歴史ある文化や美しい風景にふれようと思いました。また、いろいろな日本食に挑戦し、地酒も飲みました。そして、すばらしい交通機関（JRの運賃を除けば、すべて良いが）を使うことによって足を伸ばし、地方のお祭りなどの見物もしました。これら多くの思い出を、私はずっと忘れない事と思います。

日本での生活を振り返ってみると、忘れたい貴重な経験が多く、来年ヨーロッパに帰り他の研究者に日本での仕事を薦めたい、と確信しています。しかし、今年の仕事は多くの仲間たちによる惜しみない援助がなかったら不可能でした。彼らの献身さと協力に、私は深い敬意と感謝を表したいと思っています。

この潜在記は、後藤・斉藤両博士によって英語の原稿から翻訳されたものです。両博士に感謝します。